



第 20 回 中国 国際 軟件 博覽 会 (INT'L SOFT CHINA)

出展レポート



一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
日中ビジネスWG

平成 28 年 5 月

【目次】

I . 開催概要	1
II . 出展者一覧	2
III . スケジュール	2
IV . PhotoReport	3
V . 各社所感	4
●デザインクリエイション / 長城コンサルティング	
●インフィニテック	
●エムケイシステム	
●ワークスアプリケーションズ	
●ウイングアーク上海	
●フォーラムエイト	
VI . 総括	10

I. 開催概要

■展示会名：第20回中国国際軟件博覽會 (INT' L SOFT CHINA)
(中国国際ソフトウェア博覽會)

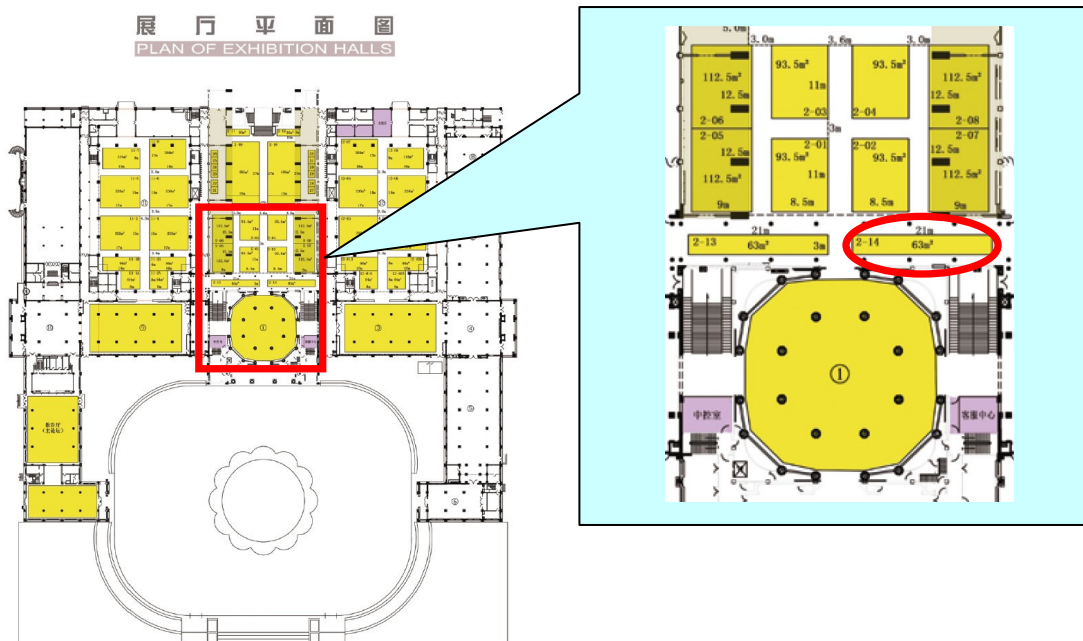
■会場：北京市北京展覽館
北京市西城区西直門外大街 135 号

■会期：2016年 5月26日 (木) ~28日 (土) 9:00 ~ 16:00

■主催：中華人民共和國工業情報化部
中国ソフトウェア産業協会
中国世界貿易センター株式会社

■総来場者数：30,000人 (主催者発表)

■日本パビリオン (CSAJブース)



II. 出展者一覧

	会社名	社名版記載名	展示製品/台数
1	株式会社デザイン・クリエイション	DESIGN CREATION INC.	CADPAC/図管王 KEYCREATOR
	長城コンサルティング	北京大凱科技有限责任公司	BCAD-GB/BCAD-DUO
2	株式会社インフィニテック	Infinitec Co., Ltd.	PrintOne
3	株式会社エムケイシステム	株式会社MK系統	社労夢 CompanyEdition
4	株式会社ワークスアプリケーションズ	上海万革始应用软件有限公司	AI WORKS
5	ウイングアーク上海	上海文雅科信息技术(上海)有限公司	Dr.Sum、MotionBoard、SVF
6	株式会社フォーラムエイト	富朗巴软件科技(上海)有限公司	UC-win/Road Engineer's Studio他

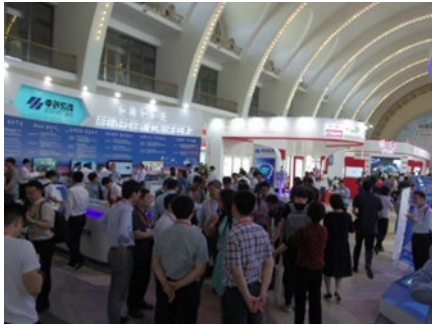
III. スケジュール

日付	訪問先等	備考
5月25日 (水)	搬入日	
5月26日 (木)	開催初日 9:00 開幕式に竹原氏、張氏、五十木氏、三宅氏が参加	
5月27日 (金)	開催二日目 18:00 中国ソフトウェア産業協会と交流会 「優秀ブース賞」の賞状を受領	
5月28日 (土)	開催最終日 16:00までの予定が12:00で終了、撤収	

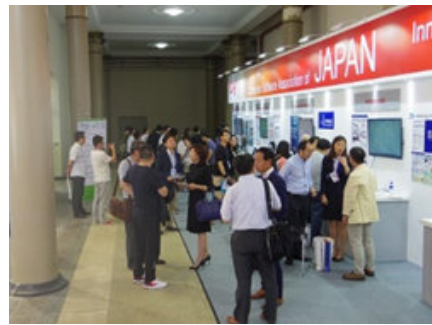
中国ソフトウェア産業協会との交流会の様子



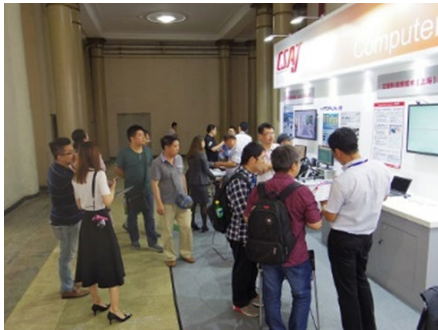
IV. Photo Report



5月26日、開幕式直後の会場



日本パビリオンにも多くの来場者



体験型の展示は高い集客力



説明員が足りなくなる時間帯も

日本パビリオンに訪れた主要な方々

中華人民共和国人力資源和社会保障部（日本の厚労省に相当）

大韓民国未来創造科学部（韓国の省庁）

エストニア大使館

中国ソフトウェア産業協会

- 理事長
- 事務局長
- 国際合作部（International Cooperation Department）

用友ソフト 社長

- 中国 No1 の業務アプリベンダー。

他のブース（一例）



V . 各社所感

【株式会社デザインクリエイション】

記： 竹原 司氏

弊社では、CADソフトと図面管理ソフトの2種類を出展した。いずれも、北京にある提携先企業で、中国語化した製品である。

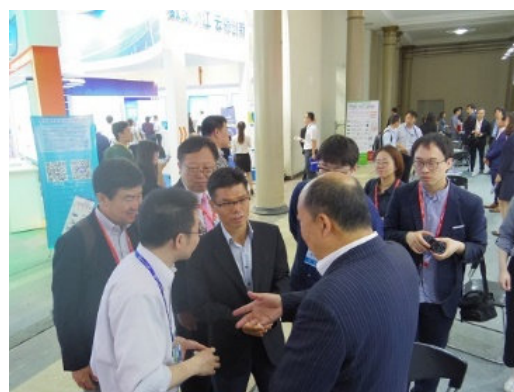
ブースへの来場者は数十名あったが、具体的な商談にまで至ったものは2件であった。販売会社及びエンドユーザー双方の来場者があった。

全体の来場者数としては、当初の期待より少なかったと言える。しかし、特化した分野の製品である割には、関心を持つ人が多く、具体的な商談にまで繋がったことは予想外の成果であった。

出展料の1社35万円は内容から見て安価であると言える。

ただ、この展示会全体が、中国各地の国営ソフトウェア企業のアピールの場という性格が強く、ビジネスの成約を主目的としたものではないことも感じられた。

来年も継続する場合、他の展示会とのコストパフォーマンスの比較検討が必要だろう。



【株式会社インフィニテック】

記： 吳本 舜氏

<出展実績>

- ・ 名刺交換 20名
- ・ カタログ配布 約200枚
- ・ 代理販売希望社 3社
- ・ エンドユーザーとして検討したい：1社（1000名 中国アルミ建材）

PrintOne のデモを見た中国ソフトウェア産業協会理事長から「このソフトなら、中国が絶対に必要。中国の大手と組んで、ぜひ販売を」とのコメントをいただいた。全体的に来場者が少なかったため、個別セミナーの開催や、中国業者との交流会を開催したほうがよかった。

<今後のフォロー>

- ・ 販売代理店希望社3社のフォロー
- ・ エンドユーザーのフォロー（価格を含む提案書の提示）



【株式会社エムケイシステム】

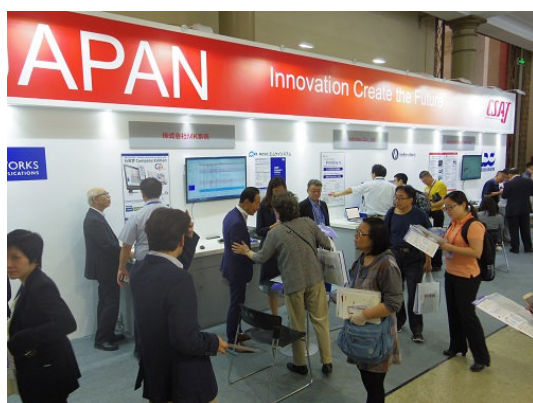
記： 加賀 裕二氏

- ・ 出展製品： 社労夢 CompanyEdition
- ・ 顧客対応数（名刺交換数）：約50社

所感：

労働保険・社会保険の手続き申請を行うクラウドシステム「社労夢 CompanyEdition」を出展しました。約1800の社労士事務所、約40万社の顧問先企業にご利用頂いている手続き申請システムのデファクトスタンダードです。今回は、中国市場のテストマーケティングのため CSAJ 日本合同ブースに初参加しました。

日本合同ブースにはひとときわ多くの来場者が訪れ、主催の中国CSIA（China Software Industry Association）より『最優秀チーム賞』をいただきました。弊社ブースも沢山の力で賑わい、広く中国の企業の方へ「社労夢シリーズ」をご紹介することができました。ありがとうございました。関係各社に感謝します。中国へのビジネス展開のきっかけになればと思います。今後も「社労夢シリーズ」を積極的にご案内していきます。



【株式会社ワークスアプリケーションズ】

記： 劉 言氏

この展示会に出展したことで、中国国内のいろいろなIT業界の方々とお話させていただきました。また、IT業界に関心がある記者の方々や政府、関連業界の方々とも交流することもできました。

結果として、アンケートは25枚、名刺は34枚を収集できました。

来場者の比率としては大体IT業界30%、販社30%、競合15%、エンド15%、そのほか（メディアや学生など）10%といった内訳となりました。来場者からの質問の多くは、たとえば当社の特徴、ERP業界の動向など業界のトレンドに関するものでした。

本展示会への出展を通じて弊社も今後自社の中国での事業拡大だけでなく、IT業界で貢献ができるよう力を入れてまいります。



【ウイングアーク上海】

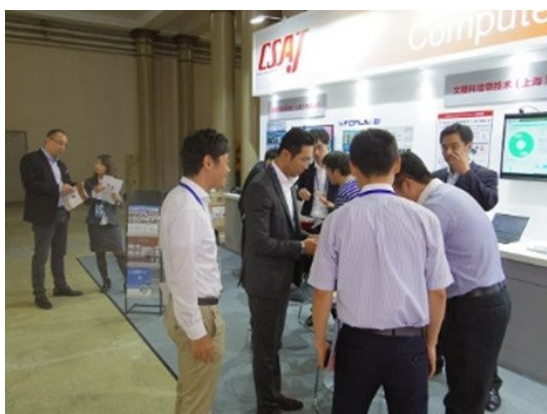
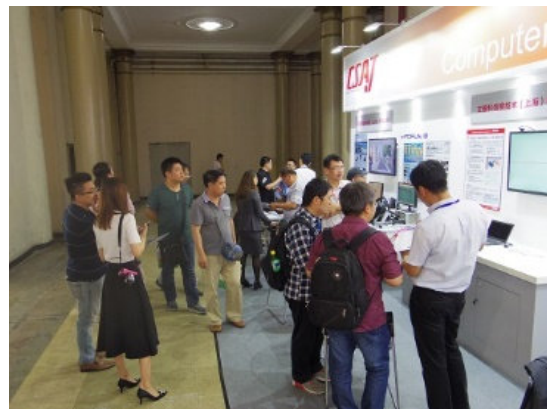
記：刘 贺玮氏

弊社は、この第20届中国国際ソフト博覧会を重視し、日本パビリオン（CSAJブース）のメンバーとしてWingarc上海の大垣総経理をはじめとする6人の体制で参加しました。

今年の大会は平年並みの規模ですが、来場者はすこし減っているように見受けられました。初日は結構もりあがっていましたが、三日目になると極端に人は少なくなりました。弊社は今回の出展で約50社と接触し、現在数社と商談を続けている最中です。

来場者は減ったようですが、メーカー同士としてとてもいい交流の場になりました。大会中にCSAJが催したCSIAとの食事会に参加させていただき、日系ソフトメーカー間でいろいろな会話ができたことも、とてもいい経験でした。

今後もぜひこのような共同展示に参加していきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。



【株式会社フォーラムエイト】

記：何 征氏

対応：三日間合計87社93名

2007年 ITS 北京世界会議の同じ会場となり、弊社のドライビングシミュレーション業務はその会議をきっかけに本格的にスタートしたので、ご縁がある場所だと思う。

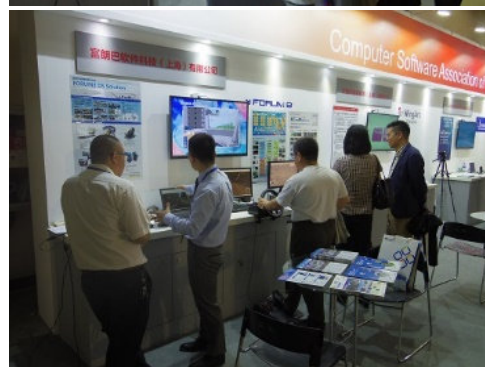
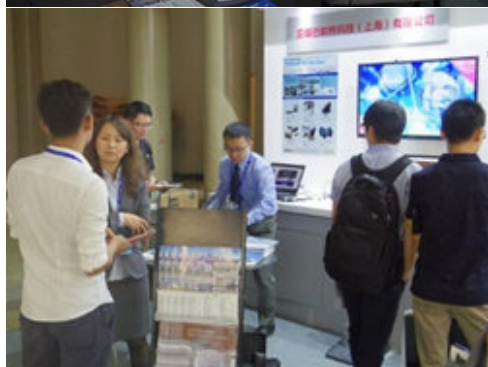
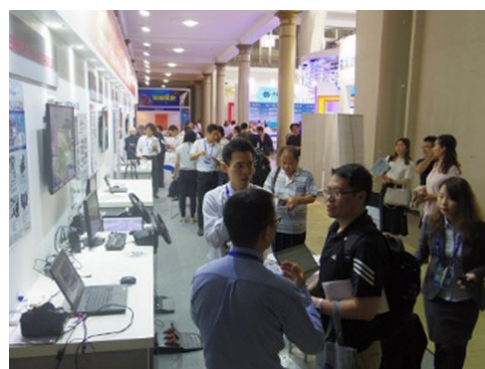
日本パビリオンは CSAJ が主催、弊社および日本国内ソフトウェア企業計 6 社の共同出展であった。

ブースの設計は隣の韓国パビリオンと違って、来場者が自然に流れてくるような開放的なブース設計となり、主催側の工夫に関心した。

弊社のブースは日本パビリオンの一番奥にあり、位置的に良いとはいえないが、ロジックハンドルと SENSO-Drive の体験型シミュレータを設置しているおかげで多くの参観者が見に来て頂いた。

Oculus 社などから VR メガネが発売されたことでブームになっている関係で、今年は中国でも VR が爆発的に人気を集めている。弊社の VR ソフト及び Oculus 連携オプションを訊ねる方も数多くいらしかった。また、会期中に中国ソフト協会との交流場も用意していただき、これから中国にソフト製品を展開しようとする企業にとってはとてもありがたいことだと思う。

今後とも CSAJ の下で、ソフトメーカーという立場から、ソフトウェアのローカライズ等、日本と中国のソフトビジネスのかけ橋として役に立ちたいと考えている。



VI. 総括

この日中ビジネス WG を設立した目的の一つが、「中国（北京、上海、大連、成都、西安、広州）の展示会への共同出展」であり、今回それを実現できたことは大変うれしく思います。

この中国国際軟件博覧会は、今年で第20回を数える中国国内でも有数のソフトウェア展示会として日本製品をアピールできるのではないかと、また、主催者である中国ソフトウェア産業協会（CSIA）との関係構築にも役立つことを期待して出展を検討してきました。

結果は残念ながら総来場者数 3 万人と、昨年の 8 万人（主催者発表）には遠く及ばなかったものの、日本パビリオンとして出展した各社は各社なりの成果を挙げていると聞いて安心しています。

帰国後に WG を開催し、今回の海外展示会への共同出展について反省会を開催し、次回に向けた課題と活動案を検討しましたので、ご報告します。

■反省点

- ・主催者が用意したマスコミ取材には事前申込みが必要であったことが情報として入ってこなかった。
- ・出展内容を来場者や現地関係者に事前アピールする手立てがなかった。
- ・会場の詳細な情報がなく、現地へ行くまで不利な立地であることが分からなかった。

■課題

- ・海外展示会、特に中国においては情報収集が困難である。今回は長城コンサルティングの関係会社である北京大凱科技有限公司の宋社長がハブとなり、主催者、施工会社との折衝を担当したため、全体的にはスムーズであったが、それでも細かな情報は伝わらなかった。

■成果

- ・出展してみなければわからないことがあるので、マイナス点も重要な情報である。
- ・CSIAとの関係構築の一歩となった。
- ・共同出展はコスト面からも目立つという点でもよかった。

■来年に向けて

- ・他の展示会を調べる必要がある。年内に調査し企画を進める。
（同日程で開催された「BIG DATA EXPO」では李首相が講演する等 9 万人を集めた）

日中ビジネス WG リーダー

張 佶

（長城コンサルティング株式会社 代表取締役社長）